

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈成会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島市津田西町一丁目9番5号		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人にとって大切なことや大事にしたいつながりを知って、支援に活かす取り組みをしている。利用者一人ひとりが持っている可能性を活かし、自分らしく暮らしていけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者と職員が穏やかに、家庭的な雰囲気の中でゆっくりと過ごすことができるように、共用空間や居室の整備を行い安全を確保している。また、利用者同士と一緒に過ごしたり、一人ひとりが寛いだりできるよう配慮している。医師や看護師との連携が密であり、重度化や緊急時の対応を適切に行っている。それらが利用者や家族はもちろん職員の安心感に繋がっている。管理者と職員は良好な関係にあり、意見やアイデアをサービスの質の向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で、その人らしい生活が維持できるような環境づくりを目指し、「ゆっくりに、一緒に、楽しみながら」という理念を掲げ、事業所内に掲示し、確認を行い、いつでも理念に立ち返れるようにしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成している。全職員は、理念を共有し、ケアの実践に取り組んでいる。本人本位の支援に重点を置く具体的な支援方針を職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買い物等に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。法人内でボランティアの方の訪問がある時に出向き、交流している。	利用者と職員で、近隣の神社や地域の秋祭りに出掛け、地域との交流を図っている。事業所では、ボランティアや託児所の児童を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への日常生活支援についての理解を得られるよう、運営推進会議等の場を設けて地域の人々に伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月間の行事を写真で見えたり、利用者様の生活の様子を報告したり、事業所の取り組みを報告し、意見を出してもらいなどして話し合っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、医師等の出席を得ている。利用者の生活や行事報告に加え、意見交換、地域の情報を得るなど双方向的な会議となっている。出された意見は、職員間で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況票等の報告を窓口へ持参し、直接担当者と話を行っている。	毎月、職員は実績報告書を担当窓口へ提出し、事業所の取り組みを説明するなどして協力関係を築いている。困難事例の発生時には、電話で連絡するなどして、常に連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部侵入者防止のため玄関を施錠しているが、利用者様の出入りは職員付き添いで自由にできるよう、常に見守りを行うようにしている。	事業所では安全上のため玄関に家庭用の鍵を掛けている。利用者の外出等の意向に応じて、そのつど職員が付き添うようにしている。バルーンチューブを抜かないように介護衣を着用している利用者があるが、家族の同意を得ている。	介護衣の着用については、家族からの同意書や話し合いを行ってはいるが、身体拘束をしないケアの工夫について検討を続け、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組まれている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、法人・事業所内での勉強会で虐待防止について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されている方がおられた。また、ホーム内に掲示したり、研修に参加できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者様やご家族様に納得していただき、不安や疑問なく入退居していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様や家族様が職員に対して何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。意見、要望等はミーティングを行い運営に反映させている。	職員は日頃の利用者の行動や会話から、意見や思いを汲み取っている。家族の来訪時には、意向を表しやすような雰囲気づくりに留意している。事業所では、嗜好調査を行い、利用者の食事の好みの把握に努めている。利用者や家族から出された意見は、職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時や随時、意見、疑問点、改善点を聞き、ミーティング時等に話し合い運営に反映させている。	事業所では、職員の意向を把握したり、アイデアを聞いたりして、ケアの把握に努めている。管理者と職員は何でも話し合える関係にあり、職員一人ひとりの意見を取り入れる仕組みを築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをを持って働けるよう、職員の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内があれば申し送りノートに記載するなどし、希望者には受講できるように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会に参加し、情報や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除くためコミュニケーションをとりながら、可能な限り本人の希望を取り入れ、信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご家族様との信頼関係を築けるよう心がけ、不安や要望等を話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人様と家族様が必要としていることとお聞きし、よりよいサービスが提供できるように情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や力、を發揮できるようにし、職員と共に家族のように過ごし、お互い助け合い、協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の暮らしをお伝えし、情報の共有に努めている。家族の思いを受け止め、共に支えあっているよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の方の来訪時には、居室や共有空間でゆっくりと会話を楽しむことができるよう支援している。	家族の協力を得て、利用者の法事への出席や一時帰宅などを支援している。知人や友人の来訪時にはゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮したり、家族との電話連絡のために取次ぎや携帯電話の操作を支援したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共同で楽しめるレクリエーションを考えたり、職員が間に入り一緒に会話をするなどして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により、やむを得ず退居になられた場合でも、定期的にお見舞いに伺ったり、本人様・家族様の相談をお聞きしたりして支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様の希望をお聞きしたり、日頃の関わりを通じたりして、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を把握するよう努め、職員間で情報共有するようにしている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な利用者には、会話や些細な表情の変化から意向を把握したり、家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族様から情報収集を行うと共に、ケアマネジャーからの情報をもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が日々の状態の変化を見落とさないようにし、本人の残存能力を把握し最大限に発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、家族様の面会時には状況報告する事により意見や要望を聞き、それを基に介護計画に組み入れ、本人様がより良い暮らしができるように作成している。	事業所では、利用者一人ひとりの意向を踏まえ、アセスメントやモニタリングを丁寧に繰り返している。計画は、全職員で作成し、家族や職員の意見やアイデアを反映している。家族の来訪が困難な場合にも、電話で意見を聞くなど柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化に気づき記録し、朝夕の申し送り、ミーティング時に職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人が、今何をしてほしいかを本人の立場に立って考え行動することで、個々の要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染み親しんできた地域との交流を行い、お世話になっている民生委員や地域の人達に支援していただき、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が希望するかかりつけ医の受診を支援している。	現在は同一法人の運営する医療機関の医師がかかりつけ医となっており、受診を支援している。家族と密に連絡を図りつつ、協力を得て、専門科の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制があり、週1回は協力医療機関の看護職員が来て入居者様の健康確認を行っている。体調不良者に対してはすぐに病院と連絡を取り対応し、緊急時の協力体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、本人様・家族様と相談しながら、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応および看取りに関する指針』を作成し、家族様へ説明、同意をいただき、協力医療機関と連携し取り組んでいる。	事業所は、契約時の段階で、本人や家族に、終末期に関する指針等を説明している。「重度化時の対応希望書」や「急変時の対応についての事前意思確認書」などで意思を確認し、同意を得ている。医師や看護師との連携が整っており、利用者の心身状態や状況の変化に応じて、家族や医師、関係機関等で話し合いながら、対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、常に掲示して緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、実際に利用者様に参加していただいて消防訓練を行っている。病院との合同訓練も行い、安全な避難誘導ができるように備えている。	年2回、消防署の参加を得ながら、夜間と日中想定火災訓練、避難誘導訓練、消火訓練を実施している。備蓄として、水や缶詰など非常食やヘルメット等を準備している。職員が消防委員として同一法人の会議に参加し災害対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員業務理念を掲示し、利用者様一人ひとりの尊厳を維持し、言葉遣いや態度に注意し職員同士でも気が付いた時は声を掛け合いながら支援している。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの確保に努めている。人格を尊重した言葉づかいや声かけに配慮したり、排泄の支援はさりげなく行うなど職員間で共有し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自身で自己決定できるよう支援し、意思表示のできない場合でも、利用者様の立場に立って考え行動するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調、動きに合わせ、安全で快適な生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本衣類等の選択は利用者様に行っていただき着用していただいている。定期的に美容師の方が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の厨房で調理したものを運び込み、事業所で利用者様一人ひとりに合わせた食事形態に加工し、盛り付けしている。毎食、利用者様がホワイトボードにメニューを書いて下さり、リビングに掲示し、楽しみにされている。	事業所では、職員と利用者で和やかに食卓を囲んでいる。全介助が必要な方も一緒に、食事を楽しむことができるよう支援している。利用者には、盛り付けや配膳、下膳等の役割を担い、生活の実感を得てもらっている。食事は、刻みやペースト状にするなど、一人ひとりの状態に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の他、バイタル、服薬、入浴、排泄が記録できるチェック表を使い、その日の状態がすぐわかるようにしている。定期的に体重測定も行い、変化があれば主治医に報告・相談するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の状態に応じ、介助の必要な人には支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を基に利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、可能な限りトイレで行うように支援している。	利用者一人ひとりの状態に合わせて紙パンツやパットを使用し、見守りやトイレ誘導を行っている。夜間のみオムツを使用する方やポータブルトイレを使用する方には、睡眠や歩行状態、立ち上がりの状況を考慮しながら排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を基に排便状態を把握している。水分及び食事摂取量に注意し、運動や腹部マッサージなどを行っている。便秘が続く場合は主治医に相談するなどして支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午前中とさせていただいているが、一人ひとりに応じた対応で、満足感を味わってもらえるような支援を行っている。	事業所では、利用者の希望や体調に応じて、週に2、3回は入浴できるように支援している。長風呂や入浴剤の利用、お気に入りのシャンプーを使用したいなど、利用者一人ひとりの希望に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具を整え、利用者様の生活リズムが崩れないように配慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り、薬の内容が確認できるようにし、変更があった時には職員全員に周知している。飲み忘れや誤薬がないように朝昼夕をマークで色分けして配薬表を使用している。服薬確認は名前や日付など、声に出して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に応じた役割を担ってもらい、達成感を味わっていただくことにより、張り合いのある毎日を過ごしてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の機会を持てるよう、散歩、季節の花を見に行くなどの支援を行っている。	利用者は、気候の良い時期には、季節の花を見に行くなど、日常的に外出して気分転換を図っている。近くのコンビニに出掛けたり、買い物にでかけることもある。以前より外出する機会や個別に支援する機会が少なくなっている。	日常的な外出支援や、本人の希望に沿って行きたい場所への外出支援により、その人らしく生きいきとした生活が得られるよう努められたい。歩行が困難な利用者にも、車イスを利用したり、家族の協力を得たりして外出も積極的に勧められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心されたり、買い物を楽しまれたり、利用者一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば、携帯電話や子機を使用し、自室でゆっくりと話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に安全と清潔を心掛け、壁面飾りは利用者様と共に作成し季節感を味わえるようにして、心地よく過ごせるように工夫をしている。	共有スペースの吹き抜けは広々と明るく、開放感ある空間となっている。掃除も行き届いており、清潔である。テーブルや椅子、ソファを程よく配置し、利用者同士が一緒に過ごしたり、個別に寛いだりできるようになっている。手芸品などを飾ることで季節感を感じるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがお気に入りの場所で思い思いの時間を過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのあるものに囲まれた生活ができるよう、家族様にも協力していただき、安心できる場所になるように支援している。	居室には、使い慣れた椅子やテーブルなどを持ち込んでもらっている。家族写真や手芸品等、思い出の小物も多く持ち込まれ、一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう、一人ひとりの状態に合わせてベッド高、滑り止めマット、家具の配置などを配慮し支援している。		